

理科・環境教育助成 成果報告書

第×回 期間：2004年11月～2005年10月

氏名：土門 みどり 所属：横浜市立井土ヶ谷小学校

課題名：自らの問題を解決する中で、豊かに表現し、学び合う学習を目指して

1 課題の主旨

近年、子どもの学びの状況づくりや協同的な学習が、学習論的にも叫ばれているところである。そこで、本校では、理科の指導法改善の基本的な手立てとして、子どもの表現(描画法・メタファー)と学び合い(協同学習)を取り入れることにした。子どもの表現を学び合いの媒介とすることで、より多くの子どもを主体的に問題解決的な学習へと導こうというのが、本課題の趣旨である。

2 活動状況

年月	内 容
04/11	学習指導案検討会 2回、第4回授業研究会
/12	第5回授業研究会、研究紀要検討会
05/01	学習指導案検討会 2回、第6回授業研究会
/02	重点研究推進委員会、重点研究全体会
/03	重点研究全体会
/04	重点研究推進委員会、重点研究全体会、森本信也先生講演会、学習指導案検討会
/05	学習指導案検討会 2回、第1回授業研究会
/06	学習指導案検討会 2回、第2回授業研究会、第3回授業研究会
/07	第4回授業研究会、神小理大会紀要検討会 3回
/08	神小理大会指導案検討会 4回、学習環境検討会
/09	神小理大会指導案検討会 2回、第5回授業研究会、学習環境検討会
/10	学習指導案検討会 1回、第6回授業研究会、学習環境検討会
/11	神小理横浜大会、紀要原稿検討会

3 結果

研究助成期間の総決算として位置づけられる神奈川県小学校理科教育研究大会において、井土ヶ谷小学校の児童は、その科学的な見方や考え方の豊かさを遺憾なく発揮することができた。その詳細は、今年度の研究紀要として刊行されることになっている。昨年度の研究紀要における子どもの表現や、表現に対する教師のかかわり・見取りに比べ、そのいずれもが豊かになってきていることは、紀要からも読み取ることができる。

子どもの表現力をより高めるために、約1年半を有したが、指導法としても、学習法としても、「表現」が認知され、学校内に定着してきたことは成果となっている。

4 今後の課題と発展

理科の全学年・全単元における子どもの表現を集約していきたい。また、そこから得られたデータを基にした指導法の工夫・改善を図っていく。さらに、それらの表現をいかに評価していくかという評価の研究を行っていく。

子どもの表現の特徴を知ること、指導計画のどこに表現が位置付くか、どこで教師が支援していくのかなどの教育課程の工夫・改善にも役立てていきたい。

5 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

神奈川県小学校理科教育研究大会要項、平成17年度横浜市立井土ヶ谷小学校研究紀要など

※貴財団の教育助成に感謝するとともに、貴財団のさらなる発展を祈念しています。